ゲスト（パネリスト） ※敬称省略 GUEST(PANELIST)

【映画監督】
■内藤　誠（ないとう　まこと）
1936年生まれ。1959年早稲田大学政経学部卒業後、東映に入社。石井輝男、深作欣二、成澤昌茂らの助監督を勤める。1969年「不良番長・送り狼」で監督デビュー。「地獄の天使・紅い爆音」「若い貴族たち・13階段のマキ」「番格ロック」「十代・恵子場合」などを撮ったのちフリーに。以後、「時の娘」「俗物図鑑」「スタア」「明日泣く」「酒中日記」を自主製作で監督。脚本に「血染の代紋」「廃市」「ルパン3世・風魔一族の陰謀」など。児童映画「わたんぺ」で文部大臣賞。「生きものと教室の仲間たち」で総理大臣賞。著述として「インディアン日本をめざす」「昭和の映画少年」「ベポン博士のカクテル・パーティ」「シネマと銃口と怪人」「昭和映画史ノート」「偏屈系映画図鑑」「監督ばか」など。翻訳にサローヤン「ロック・ワグラム」「マーロン・ブランド自伝」「快楽亭ブラック」（翻訳特別功労賞）など。

【映画監督】
■森川　圭（もりかわ　けい）
東京都出身。これまで1000本以上のAV作品を手掛ける。「メイクルーム2」も自身の体験を元に執筆し、AV撮影の舞台裏、メイクルームで起こるドタバタの人間模様を新たなキャストを迎え温かくユーモラスな視点で描く。ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2015オフシアター・コンペティション部門グランプリ獲得作品「メイクルーム」待望の続編。

【映画監督】
■井口　昇（いぐち　のぼる）
1969年東京都出身。07年『片腕マシンガール』が海外および国内でカルト的な人気を博し、30カ国以上の国際映画祭で公開、一躍その名を世界に轟かせた。その他にも、『ロボゲイシャ』、中川翔子主演作『ヌイグルマーZ』、でんぱ組inc主演「でんぱコネクション　フレンチ」ドラマ「監獄学園」など。「ノーメイクス」プロジェクトでは、コンセプトワーク・作詞も行う。「ノーメイクス」主演映画2作目の撮影を12月に控える。

【映画監督】
■本田　隆一（ほんだ　りゅういち）
1974年神奈川県生まれ。大阪芸術大学映像学科卒業後、日本大学大学院芸術学研究科に入学し映像芸術を専攻。卒業制作として監督した16ミリ長編「東京ハレンチ天国・さよならのブルース」が、2001年ゆうばり国際ファンタスティック映画祭オフシアター部門でグランプリを受賞。トリノ国際映画祭、プチョンファンタスティック映画祭等、海外の映画祭にも招待され、同年暮れに全国五カ所で劇場公開された。以後、劇場用映画、オリジナルビデオ、テレビドラマ等、ジャンルにとらわれず作品を撮り続け、ナンセンスかつシュールだが娯楽味溢れる独自の世界を展開中。映画の代表作は「GSワンダーランド」（'08）「市民ポリス69」（'11）「大木家のたのしい旅行・新婚地獄篇」（'11）など。TVドラマでは「怒み屋本舗Reboot」（'09）「傍聴マニア09」（'09）「仮面ティーチャー」（'13）などを演出している。

【映画監督】
■ヤマシタ　マサ（やました　まさ）
1975年生まれ。九州出身。中央大学総合政策部中退。映像制作会社にて数十作品のミュージックビデオの制作、企画、演出に携わる。退社後、執筆した脚本「快楽ハイウェイ」がサンダンス・NHK国際映像作家賞2010にノミネートされる。その脚本が今作品「狂犬」のベースになっており、足掛け5年でようやく映画化を果たす。「狂犬」にて、ゆうばりファンタスティク映画祭2016オフシアター・コンペティション部門で入賞。

【映画監督】
■山口　ヒロキ（やまぐち　ひろき）
1978年8月22日生まれ。京都府出身。 立命館大学文学部卒。自主映画制作集団、立命館大学映画部第39代部長。1997年、大学1回生より映画制作を開始。19歳で監督した2作目「深夜臓器」で第2回インディーズムービー・フェスティバル　グランプリを受賞し、2000年秋、初の劇場用作品「グシャノピンツメ」の制作を開始。 2004年2月より全国劇場公開。北米、南アジア、ドイツ、イギリスでも配給が決定し、モントリオール・ファンタジア国際映画祭グランドプレーカーアワード銀賞受賞をはじめ、数多くの海外映画祭でも高い評価を得る。近年はオリジナルのSF作品や小説・漫画原作の実写化を多く手がけ、原作ファンからの評価も高い。現在も新作数本を準備中。

【映画監督】
■浅沼　直也（あさぬま　なおや）
1985年生まれ。長野出身。東放学園映画専門学校卒。東放学園学校校長賞『えすけーぷ、風呂む』が第3回TSSショートムービーフェスティバルと東放ビデオフェスティバルで準グランプリを獲得。脚本家・我妻正義氏に師事。長編作『HeartBeat』では、ゆうばりファンタスティック映画祭正式出品、SKIP国際Dシネマ映画祭長編部門に正式ノミネート。第6回田辺・弁慶映画祭で市民審査賞を受賞。テアトル新宿、ユーロスペースなど全国公開する。文化庁委託事業若手映画作家育成プロジェクト2013の実地研修に選出され、「鉄馬と風」を完成させる。同作は、香港インディペンデント短編映画&ビデオアワード映画祭の審査員セレクションにて上映。

【プロデューサー】
■瀬戸　恒雄（せと　つねお）
（株）石井輝男プロダクション代表取締役。（株）パナック代表取締役。1970年東映（株）入社、同年、東映興業（株）に出向。その後、東京撮影所製作部へ異動。多くの作品の製作現場を体験後、77年企画部プロデューサーへ転出。以後、映画やTVドラマ、Vシネマ、アニメの企画プロデューサーとして全てのジャンルにわたり活躍、多彩な企画力は業界屈指。「多羅尾伴内・鬼面村の惨劇」が一作目の作品で、その後、「暴力戦士」「天使の欲望」を手掛け、「ダンプ渡り鳥」「悪女かまきり」「ぼくとぼくらの夏」「友情」など映画を中心に企画活動を進める。作品をジャンル別に挙げると、戦争三部作として「二百三高地」に続き「大日本帝国」、「日本海大海戦海ゆかば」、また、文芸ロマン作品では水上勉原作の「白蛇抄」、渡辺淳一原作の4作品「ひとひらの雪」、「化身」、「別れぬ理由」、「桜の樹の下で」に続き東宝洋画系で公開された「花の降る午後」の映像化を手掛ける。　薬師丸ひろ子主演の「Wの悲劇」や「野蛮人のように」の様なアイドル映画や社会派映画として評価された「誘拐報道」にも挑戦した。アウトロー映画のジャンルでは、「シャコタン・ブギ」、「瘢（きず）」、「まむしの兄弟」、「新・仁義の墓場」、「実録安藤昇侠道伝烈火」、「やくざの詩OKITE」、「牛頭（ごず）」など多数。杉本彩主演の「JOHNEN　定の愛」、「BLOODブラッド」、などの異色作や「今日からヒットマン」も企画した。最新作は2015年3月公開した「酒中日記」。Vシネマでは「狂弾」シリーズ1・2、「修羅がゆく」シリーズ1～13、「修羅のみち」シリーズ1～12、「極道三国志」シリーズ1～5、「瘢（きず）」シリーズ1～5、「マニラ・エマニエル夫人」1・2、「バトルロード」シリーズ1・2、「横浜愚連隊物語」1・2、「新宿愚連隊物語」1・2、「猿飛佐助」シリーズ1～4、「銭道」シリーズ1～6、「荒ぶる魂たち」1・2、「許されざる者」1・2、「伝説のやくざ・ボンノ」1・2、「最後の博徒」1・2、「極道はクリスチャン」、「県警強行殺人班鬼哭の戦場」1・2、「新極道渡世の素敵な面々」1・2、「チャカ」シリーズ1・2、「九ノ一金融道」、「修羅の蛮王（バンキング）」、「平成金融道」シリーズ1・2、「惚れたらあかん代紋の掟」、「地獄道」、「女郎蜘蛛」、「会いたくて　愛の殺人者」、「桜の代紋」、などを担当した。TVは日本テレビの火曜9時「マッドポリス大激闘」シリーズ、同じく「特命刑事」シリーズ、TBS2H「上役の遺した愛人」など。アニメは「なにわ遊侠伝」など28本の作品と関わる。この他に、桑原清・津島研郎・麻乃大樹などのペンネームで24本の映画・ビデオ映画を企画プロデュースする。全国各地の歴史・文化・映画祭に精通し、道内では"オホーツク網走フィルムフェスティバル"（網走映画祭）の開催を1回目から支援している。

【ドキュメンタリー・ディレクター、プロデューサー】
■横山　隆晴（よこやま　たかはる）
1953年新潟市生まれ。早稲田大学政経学部卒。フジテレビ入社。報道局・社会部記者を経て、ドキュメンタリー・ディレクター、プロデューサー。主な作品に『白線流し～4年後の早春賦～』、『ゆっぴいのばんそうこう』、『小さな留学生』、『若者たち』、『私の太陽』、『ドキュメンタリー北の国から』、『ドキュメンタリー中国からの贈りもの』、『桜の花の咲く頃に』、『泣きながら生きて』、『私たちの時代』など多数。ギャラクシー賞・選奨、日本民間放送連盟賞・最優秀賞、日本放送文化大賞・グランプリ、JPPA賞・グランプリ、アジア・テレビジョン・アウォード・優秀賞、放送文化基金賞<放送文化>個人賞など受賞。2013年3月、フジテレビ退社。同年4月より、近畿大学・総合社会学部・教授。ギャラクシー賞（報道活動部門）選考委員。放送批評懇談会・正会員。